

■特集 『富士山』世界遺産登録記念

御殿場市から見た富士山

1) 世界遺産と文化遺産

今年平成25年6月22日、第37回ユネスコ世界遺産委員会において『富士山』は世界文化遺産登録となりました。そこで、初めて世界遺産を有する県民となった今『世界遺産とは?』『文化遺産とは?』を改めて把握してみることに始めてみましょう。

『世界遺産とは?』

世界遺産（せかいいさん）は、1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（世界遺産条約）に基づいて世界遺産リストに登録された、遺跡、景観、自然など、人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ物件のことで、移動が不可能な不動産やそれに準ずるものが対象となっている。

世界遺産はその内容によって以下の3種類に大別されています。

【文化遺産】

顕著な普遍的価値をもつ建築物や遺跡など。

東部ブロック御殿場地区 長尾 隆行

【自然遺産】

顕著な普遍的価値をもつ地形や生物多様性、景観美などを備える地域など。

【複合遺産】

文化と自然の両方について、顕著な普遍的価値を兼ね備えるもの。

世界遺産の登録と登録件数（平成25年9月現在）

【文化遺産】

（建造物群、遺跡、文化的景観など）759件

【自然遺産】

（地形地質、生態系、生物生息地など）193件

【複合遺産】

（文化遺産と自然遺産の両方の価値）29件

ちなみに、富士山は文化遺産として、登録名称「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」、国内で17番目の世界遺産として登録されました。

『文化遺産とは？』

世界遺産条約では、文化遺産は次の3つのいずれかに分類されることになっています。それぞれにおいて顕著に普遍的な価値を有していることが大前提となります。

■記念工作物 (monument)

歴史上や芸術上、その記念碑的価値の認められた建造物などを対象とする。具体的には、ケルン大聖堂（ドイツ）など、単独の建造物として登録される物件はこれに分類されるのが普通である。

■建造物群 (group of buildings)

単独の建造物でなく、複数の建造物群が一群として評価されたもの。具体的には、ポルト歴史地区（ポルトガル）のように町並みなどが登録される場合には、これが適用される。また、ベルギーとフランスの鐘楼群のようにまとまった景観を形成していなくても、「建造物群」としてカテゴライズされる。

■サイト (site)

建造物にとどまらない地域一帯が対象となる場合などに適用される。なお、このカテゴリーは日本語文献では「遺跡」と訳されることが多いが、日本語で一般的に言う「遺跡」とは若干意味が異なり、クンタ・キンテ島と関連遺跡群（ガンビア）やキルワ・キシワニとソング・ムナラの遺跡群（タンザニア）など、過去の栄華を偲ばせる物件だけでなく、フィリピン・コルディリエラの棚田群のように現存する農業文化の継承地域なども含まれる。1992年に「世界遺産条約履行のための作業指針」に「文化的景観」の概念が盛り込まれたが、これは基本的には上記三分類の中の「サイト」と重なることが多い（アムステルダム防塞線のように、「建造物群」に分類されていても文化的景観にあてはまる可能性が示唆された物件はある）。

《文化遺産としての登録基準》

- (1) 人類の創造的才能を表現する傑作。
- (2) ある期間を通じてまたはある文化圏において建築、技術、記念碑的芸術、都市計画、景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの。
- (3) 現存するまたは消滅した文化的伝統または文明の、唯一のまたは少なくとも稀な証拠。
- (4) 人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の優れた例。
- (5) ある文化（または複数の文化）を代表する伝統的集落、あるいは陸上ないし海上利用の際立った例。もしくは特に不可逆的な変化の中で存続が危ぶまれている人と環境の関わりあいの際立った例。
- (6) 顕著で普遍的な意義を有する出来事、現存する伝統、思想、信仰または芸術的、文学的作品と、直接にまたは明白に関連するもの（この基準は他の基準と組み合わせて用いるのが望ましいと世界遺産委員会は考えている）。

『富士山と信仰/富士山と芸術』

富士山は、その圧倒的な存在感から畏敬の念をおこさせ、霊峰富士として古来から多様な信仰の対象として崇拝されてきました。平安時代初期には富士山の噴火を鎮めるための「浅間神社」が建てられ、平安時代後期には修験道の道場になりました。室町時代には登山道が開かれ登拝する山として庶民に親しまれ、江戸時代には信徒組織「富士講」が組織されるようになりました。現在でも多くの登山者が訪れています。

また、富士山は芸術の源泉となり「万葉集」や日本最古の物語とされる「竹取物語」をはじめ数多くの和歌・物語など文学の題材になりました。室町時代には富士山を題材とした絵画作品が多数描かれ、江戸時代には、文学、絵画、工芸、庭園等のモチーフとして多岐にわたって取り上げられました。特に葛飾北斎、歌川広重により描かれた浮世絵は、西洋の芸術家の作品に影響を与え、富士山の荘厳な形態を世界に知らしめました。

以上の2点（3）（6）が評価されて、登録に至ったようです。